

株式会社フコク 新中期経営計画 2026 説明会 質疑応答要旨

株式会社フコク

Q. ワイパーブレードラバーの当社の強み及び今後の生産能力拡大計画について。

- ・ 当社の強みは、お客様の要求仕様に設計段階から参加し、当社独自の開発ソフトを用いたシミュレーションを行うことで、開発面でのスピードアップが可能なこと。
- ・ 生産能力拡大については、タイにあるワイパー生産工場の能増体制を強化しており、今後の需要増に十分対応出来る体制を取っている。

Q. バッテリーホルドシートの今後の売上見通しについて。

- ・ 現在と同等仕様のバッテリーが拡販されると想定した場合、2026 年度売上高は 10～20 億円を見込む。
- ・ 2030 年度は、技術進化に伴うバッテリー形態の変更も想定されるが、次世代バッテリー方式への対応についても既に検討を進めており、そうした観点からも売上は拡大すると考えている。

Q. 2023 年度の経費 15 億円(※2023 年 3 月期決算説明会資料 P14 ご参照)を計画した理由、及び 2024 年度以降の経費の増減の見込みについて。

- ・ 2023 年度の増加要因は、物価上昇影響を見込むため。
- ・ 2024 年度以降は 2023 年度水準を維持する見込みだが、水道光熱費、燃料費が高位で推移する前提。

Q. 中期経営計画達成におけるリスクと主な対応方針、特に環境規制が当社に与えるリスクについて。

- ・ 自然災害や疫病、環境規制等が主なリスクと考えている。「事業等のリスク」については有価証券報告書に記載の通り。
- ・ 環境規制は今後各国での規制強化を懸念するが、現状、特に中国での VOC 規制が懸念材料。

Q. 環境配慮型製造プロセス確立に向けた取組みについて。

- ・ ゴムの成形工程における廃棄ゴム削減や廃水低減を目指した取組みを進めている。中でも、天然由来の原料を使用することが大きなポイントと考えている。実際にラバーの開発は進んでおり、製品機能は完成に近づいている状況。
- ・ ただ、全ての生産プロセスへの取込と言う観点ではお客様とのタイアップも含めて進めている状況であり、具体的なプロセス完成時期を明確に申し上げられる段階にはない。
- ・ 尚、環境関連投資で 3 年間約 7 億円を計画している。

Q. 製造工程自動化の進捗について。

- ・ 従来工法を自動化するだけではバリ（注釈:素材を加工した際に発生する出っ張りやトゲのこと）が増える傾向にあったが、新工法と併せることでバリの発生を最小限に留めるなど、最良の自動化を目指して開発を進めている。

Q. EV化進行に伴うワイパーへの影響について。

- ・ 現状では大きな影響は見込んでいない。
- ・ 一方、ワイパー以外のエンジン関連部品はEV化進行に伴う売上減も想定されるが、CASE対応の製品開発を進めることで、トータルでは拡販に結び付くと考えている。

Q. 2026年度の地域別売上高・営業利益計画について。

- ・ 成長地域と位置付けるアセアン・インド地域で伸ばす計画。
- ・ アセアン・インド地域の2023年度計画は、売上高300億円弱、営業利益10～15億円のところ、2026年度計画は、売上高400～450億円、営業利益30～40億円を見込んでいる。

Q. 2030年度売上目標1,200億円は、内部成長のみでの達成を見込んでいるのか。

- ・ 新事業の成長に加え、ライフサイエンス分野におけるM&Aスキームも視野に入れていく。

Q. 環境配慮型製品の開発状況について。

- ・ 現状、お客様との共同開発に取り組んでいるが、このニーズもあることから、将来的にはこの状況をチャンスととらえ、拡販に繋げて行く。

Q. 投資総額210億円の詳細について。

- ・ 国内93億円、海外117億円を計画している。
特に重点地域であるインドでのダンパー能増やインダストリアル関係の生産設備増強を計画している。
- ・ 投資増による減価償却費への影響は約10億円と見ている。

Q. 現在の円安水準が継続した場合の業績影響について。

- ・ 為替変動による影響は軽微であることから、大きな変化は無いと想定している。

Q. ワイパーブレードラバーの市場シェア拡大戦略について。

- ・ 現状世界シェア45%程度を獲得しているが、更なるシェア拡大に向け、OEMではヨーロッパや中国、アメリカなどの競合他社からシェアを獲得していく。
- ・ アフターマーケットでは当社はまだシェアが殆ど無いが、中国、アメリカを中心とした拡販・市場拡大を狙っていく。

Q. PBR 向上策について。

- ・ 配当政策による株主還元や営業利益率 8%目標、IR 活動強化の 3 点を柱に取り組む。

Q. ワイパーブレードラバーを再利用する場合、同一製品での再利用となるのか。

- ・ ワイパー素材の再利用先は同一製品に限定せず他製品への転用も想定されるが、いずれの場合も、ゴムとしての再利用を考えている。

Q. 営業利益率の大幅な改善の要因について。

- ・ 売上高計画は P21 のグラフの通り。
- ・ 営業利益の詳細計画は差し控えるが、総じて成長事業・新事業の利益率は自動車よりも高い利益率で計画策定している。

Q. タイ (サイアムフコク)以外における海外拠点の強化・再編可能性について。

- ・ タイでの生産増強に加え、成長地域と位置付けるインドネシア・インドでの工場再編を進めていきたい。特にインドの成長力に注目しており、こうした観点から、インドの工場再編を進めている。

以上